

第9章 将来のビジョン

(1) 目指すまちのコンセプト

Rapidusの立地をきっかけに、今後本市の企業集積や人口は大きく変化していくと想定しています。本市においてはこの変化を契機として、このまちに暮らす市民が幸せを感じ「住みやすい」「住んでよかった」と思えるまちづくりを進め、将来に向け、さらなるまちの発展を目指していく必要があります。これらを鑑み、このたび本市が目指すまちのコンセプトを次のとおり3つ設定しました。



このコンセプトは、国において掲げている「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ(ウェルビーイング⁴⁴)を実現できる社会」の実現にも大きく寄与するものと考えています。この3つのコンセプトの達成に向けた、取組を進めることで、将来にわたるまちの持続的な発展と市民の生活向上を実現し、このまちに暮らす市民が幸せを感じ「住みやすい」「住んでよかった」と思えるまちになると考えています。

01 新たな発想が創出されるまち

世界で未だ実現していない次世代半導体の製造への挑戦が、千歳で始まろうとしています。

私たちは次世代半導体産業の集積という、本市にとって初めての出来事をチャンスに、第2、第3のイノベーションが起こせるよう、新たな発想が創出されるまちを目指します。

そのためには、人種を問わず、様々なバックボーンをもった多様な人材が集まるまちづくりが必要であり、施設や人材が充実し研究開発が促進される環境や、スタートアップ企業が活動しやすい環境づくりも重要になります。

⁴⁴ 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

新たな発想が生まれ出されるまちになることで、新しいサービスやアプリケーションを開発する企業の集積が期待でき、産業発展と企業集積の好循環が発生します。さらに未来に希望を持った学生や若年起業家も集まるなど、ワクワク感のある活力にあふれたまちへと成長していきます。

実現に向けた要素

- 国際カンファレンス機能の構築や共創空間等の整備など
- 行政手続きや医療、教育、交通、商業等生活関連サービス全般における多言語対応や多文化共生社会の実現に向けた取組など
- 研究開発やスタートアップ事業に係る実証フィールド⁴⁵の提供や特区制度の活用など
- 公立千歳科学技術大学を中心とした大学機能の拡充への総合的支援など

02 自然と人が共存するまち

本市の特徴の一つには、広大な森林と支笏湖を擁する支笏洞爺国立公園、支笏湖から市街地に流れる清流千歳川を代表とする豊かな自然、また、そこで息づく植生や野鳥などの多様な生態系を有しており、Rapidus が本市に製造拠点の立地を決めた一因にもなりました。

今後は半導体産業や研究機関の集積、新たな住居・商業施設の開発など、まちが加速度的に変化していくことが見込まれますが、将来においても本市が持続的な発展をしていくためには、豊かな自然環境や緑を後世にわたって守り継ぐ意識を持ち、自然環境への配慮と経済的発展を同時に進める調和のとれたまちづくりを進め、市民をはじめ本市に関わるすべての人々の生活の質向上を実現していく必要があります。

このことから、本市においては、持続可能な社会の構築に加え、半導体製造拠点の立地を契機とした自然・生態系への配慮や緑化を意識した都市開発、脱炭素化に向けたクリーンエネルギー⁴⁶の普及等について、これまで以上に推進していく必要があります。

このため、『自然と人が共存するまち』をコンセプトのひとつに掲げ、市民や本市を訪れる人々のウェルビーイングの実現、まちの発展と自然環境への配慮の両立による世界的評価の獲得を目指します。

⁴⁵ イノベーション促進のために、一時的に規制の適用を停止するなど、迅速・円滑に新たなビジネスの実証実験を可能とする仕組みが適用された場所のこと。

⁴⁶ 一般的に「地球環境に悪影響を及ぼさない方法で発電されたエネルギー」を指す言葉。例えば、太陽光発電や風力発電、地熱発電でつくられた電気などがあげられる。

実現に向けた要素

- 環境関連の教育プログラムの導入や教材提供など
- 中心市街地における歩行空間や広場等の緑化推進施策・支援など
- Park-PFI⁴⁷等の手法を活用した「自然や緑」を活かした人々の交流の場の創出など
- クリーンエネルギーの供給と普及拡大への総合的支援など

03 テクノロジーにより暮らしが向上するまち

生成 AI の登場を皮切りに、さらに高度な AI 技術やセンシング技術等、ますます新しいテクノロジーが生み出されていくと予想されており、そこで大きな役割を果たすのが本市で製造される次世代半導体です。

次世代半導体等によって創られる新たなテクノロジーは、暮らしを大きく変化させます。例えば、AI を使った交通管理システムや自動運転の導入により効率的な移動手段が確保できるほか、AI ロボットを活用した介護現場の効率化、いつでもどこでも高度医療が受けられる遠隔医療の実現などが挙げられます。

新たなテクノロジーを積極的に都市基盤に活用していくことで、社会課題の解決と、より便利でより豊かな市民生活の実現を目指します。

実現に向けた要素

- デジタルツイン技術等の活用と3D都市データの整備及び都市インフラ強化策の検討など
- 市内全域での完全自動運転実装に向けた研究・実験等への総合的支援など
- 行政サービスにおける AI、ロボット、ビッグデータ等の利活用など
- 市内事業者が新技術を活用しやすい環境整備など

⁴⁷ 都市公園に民間の優良な投資を誘導し、公園管理者の財政負担を軽減しつつ、都市公園の質の向上、公園利用者の利便の向上を図る新たな整備・管理手法。

(2) コンセプト実現後のシーン

01



中心市街地は再開発が進み、ビルの路面店等に出店するカフェやレストランなどで食事を楽しむ人々や、緑化された広場では散歩やピクニックを楽しむ人々など、中心市街地がウォークアブルな街並みに変化し、日常的な賑わいが生まれているでしょう。また、テクノロジーの発展によって国籍や言語を超えたコミュニケーションが活発になり、多文化共生社会がこのまちに浸透しています。

新たな発想が創出されるまちとしての土壌が創られることで、世界各地から新たなアイデアや技術を持った人々が続々とこのまちに集まり、お互いの研究結果を発表し合うような国際カンファレンスなどが定期的で開催され、そこからまた新たなアイデアや技術が創られる。そのような好循環が生まれ、このまちは持続的に発展していくでしょう。

02



03



このまちの郊外には実証フィールドが設けられており、大手企業やスタートアップ企業など、国内外からさまざまな企業が新たな技術やサービスの実現に向けた実証実験のために集まり、本市に中長期的に滞在することになるでしょう。これに伴って、中心市街地の飲食店やホテル等の利用がより一層促進され、まちの賑わいが創出されます。

完全自動運転技術が実装された次世代型自動車や路線バスが普及し、それらの燃料は化石燃料から水素に代わり、ガソリンスタンドが水素スタンドになるなど、クリーンエネルギーの利用が市民生活に浸透し、自然環境への影響を限りなく抑えたライフスタイルが確立しているでしょう。また、さらに都市緑化が進み、緑とともにある暮らしによって、市民に心の豊かさをもたらしています。

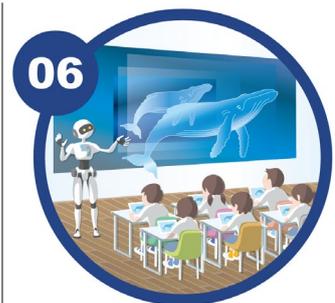
04





自動車や飛行機、歩道や車道、街灯等に備えられた高度なセンシング技術によって、子供の車道への飛び出しや車両の誤作動・誤操作による交通事故が完全防止され、盗難等の犯罪も抑制されるなど、幅広い世代の市民がより一層安心・安全に暮らせるまちになっています。また、災害発生時にはAIで形成された適切な避難路から外れないようセンシング技術を活用して確実に誘導できるように、被害は最小限に抑えられています。

AIの進化によって教育は大きく変化しています。例えば、アダプティブラーニングと呼ばれる、生徒一人ひとりの適性や習熟度に合わせた教育プログラムを進めていく学習方法が採用され、採点作業や試験監督などをAIロボットに担わせることで、教員はAIでは難しい「考える力」や「学びに関するモチベーション」を生徒に与える業務に集中できるようになるなど、より一層効果があり、より意義のある教育が実現しているでしょう。



仮想空間技術が進化し、現実世界と仮想世界を融合した新たな生活スタイルが生まれるほか、より一層合理的なビジネスの展開や安全性の高い防災体制の構築等が進むでしょう。例えば、メタバースと呼ばれるインターネット上の仮想世界において、アバターと呼ばれる自分自身の分身を通じてネットショッピングをしたり、国際的なビジネスの商談をしたりなど、仮想世界で、世界中の人々とリアルな体感をもってコミュニケーションを取ることが容易になります。

本市に根付く各産業においても、先端技術が積極的に活用され、様々な分野で生産性が向上しているでしょう。例えば、農業分野においては、AIによって精緻に圃場が管理され、無人機やAIロボットなどが自動で農作業にあたり、管理者は経営の管理・運営に注力するなど、適材適所の体制が整っているでしょう。また、建設分野においても同様に、無人の建設機械を遠隔操作したり、AIロボットが建設資材を運搬したりなど、建設現場の省人化が飛躍的に進むでしょう。



(3) 将来のまちの姿



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

コラム 変わる、街並み。

ちとせ ミライの暮らし

馴染みのある街並みは居心地の良さを与えてくれますが、新しい飲食店や大きな書店など、ワクワクするようなお店がこのまちにたくさんできたらいいな、などと想像したことはありませんか？市民やよくこのまちを訪れる人であれば、一度はこのまちの未来を想像したことがあるはずですよ。

本市が半導体産業の拠点として活性化し、デジタル技術の進化によってポジティブな変化がたくさん起こることで、特に中心市街地は大きく変貌しているでしょう。

今回は、このまちにあったらいいなを想像し、“未来”をたくさん盛り込んだ千歳市の中心市街地を紹介します。



未来の JR 千歳駅周辺



未来のJR千歳駅周辺は、多くのビジネスパーソンが行き交う先進的なオフィス街になっています。高層オフィスビルやビジネスホテルが立ち並び、どのビルも明るく開放的で、植物を配置した落ち着いた空間が演出され、働く人々は皆生き生きとしています。また、多くのビジネスがグローバルに変化しており、デジタル技術によって言語の壁がなく、仮想空間の活用によって容易に世界でビジネスが展開できるようになっています。また、ビル単位でエネルギー循環ができており、完全にエコでクリーンな建物が実現しています。

オフィス街の通りは完全自動運転の自動車が規則正しく行き交い、列車やエアモビリティ、旅客機などと綿密に連携されたシステムによってシームレスな移動を実現しています。歩道は街路樹や花壇などでキレイに整備され、歩道の両側に位置するビルの路面店で営業するレストランやカフェ、ショップが連なり、まちなかがショッピングモール化しています。ここでは、ビジネスパーソンだけでなく、学生など若者も集い、毎日賑わっています。また、高度なセンシング技術によって交通事故の発生がゼロになっており、ウォークアブルで安心安全な空間が広がっています。

また、このエリアには、レストランやスパを備えたシティホテル、すべてがハイグレードなラグジュアリーホテル、地元食材を使用した食事に特化したオーベルジュなど、特色を持った宿泊施設が多数生まれていて、どのホテルも年齢・性別・国籍・肩書がさまざまなビジネスパーソンでいつも満室となっており、これによってまちなかは昼夜多くの人々が行き交っています。



未来のグリーンベルト

未来ではグリーンベルトも大きく変化し、本市のランドマークになっています。オープンテラス型のカフェとその周辺にはフードトラックやフリーマーケットなどが集まる広場、心地の良い緑のある公園があり、このまちの憩いの場となっています。例えば、よく晴れたあたたかい日には、さまざまな世代の人々が広場や公園でランチを楽しんでいたり、芝生の上でピクニックをして団らんしていたり、カフェのコーヒーを飲みながら読書を楽しんでいたり、ヨガやピラティスなどアウトドアフィットネスで汗を流していたりと、思い思いの過ごし方をしています。また、イベントスペースには超大型スクリーンが設けられ、スポーツ観戦などのパブリックビューイングや夏祭りなどのイベントが定期的に行われており、昼夜・天候問わず、人々で賑わい、活気ある空間になっています。



未来の繁华街

未来の繁华街は、居酒屋や高級な料亭、レストランなど、食事やお酒を楽しめる多種多様な飲食店が立ち並び、街並みはより一層洗練されたエリアになっています。各飲食店では受付ロボットや調理ロボット、配膳ロボットが運営をサポートしており、ノンストレスな食事を楽しめるようになっています。また、海外からの出張客や観光客に人気の古き良き日本の居酒屋をイメージした横丁エリアができ、さまざまな国籍と世代の人たちで賑わっています。このエリアの飲食店は、敢えてデジタル技術は多用されておらず、旧来型のサービスを受けることができ、このまちの新たな名所になっています。

いかがでしたでしょうか？みなさまが考える千歳市の”あったらいいな”は盛り込まれていたでしょうか。ここで紹介した未来の姿は、ほんの一例に過ぎず、このまちにはもっともっとたくさんの可能性を秘めています。

ただ、どの未来も、たくさんの”あったらいいな”から生まれたものであり、その夢を語らいながら、実現に向けて手を取り合って行動していかなければ、実現しないものばかりです。

千歳市は今、私たち自身の未来のために、子供たちの未来のために、変革の時を迎えようとしています。市民がこのまちに誇りを持ち、訪れる人々がこのまちを好きになってくれるよう、”オール千歳”で、ともに未来を創っていきましょう。

付属資料

【千歳市次世代半導体拠点推進本部について】

本市では Rapidus の円滑な操業に加え、さらなる広域的な産業集積を進めていくことなどを目的として、令和 5 年(2023 年)4 月に市長を本部長とし、各部の部長職を委員とする庁内組織「千歳市次世代半導体拠点推進本部」を設置しました。

千歳市次世代半導体拠点推進本部設置要綱

令和5年3月24日市長決裁

(設置)

第1条 国家プロジェクトである次世代半導体の製造企業が本市に立地表明したことを受け、当該事業の円滑な推進と今後想定される諸課題に機動的に対処するため、全庁的組織として、千歳市次世代半導体拠点推進本部(以下「本部」という。)を置く。

(所掌事項)

第2条 本部の所掌は、次のとおりとする。

- (1) 次世代半導体拠点の推進にかかる総合調整に関する事項
- (2) その他当該事業の推進に関する事項

(組織)

第3条 本部は、本部長、副本部長及び委員で構成し、別表1に掲げる職員をもって充てる。

(職務)

第4条 本部長は、本部を統括し、会議を主宰する。

- 2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 本部の会議は、本部長が必要に応じて招集し、その議長となる。

- 2 本部長が必要と認めたときは、本部構成員以外の者を会議に出席させ、その者の説明又は意見を聴くことができる。

(専門部会)

第6条 本部に専門的事項等の検討のため、必要に応じて部会を置くことができる。

(庶務)

第7条 本部及び専門部会の事務局は、企画部次世代半導体拠点推進室に置く。

(補足)

第8条 この要綱に定めるもののほか、本部の運営に関し必要な事項は、本部長が定める。

附 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

別表1(第3条関係)

本部長	市長
副本部長	副市長
委員	教育長
	公営企業管理者
	企画部長
	次世代半導体拠点推進室長(企画部理事)
	総務部長
	市民環境部長
	保健福祉部長
	こども福祉部長
	産業振興部長
	観光スポーツ部長
	建設部長
	病院事務局長
	消防長
	水道局長
	教育部長

この下部組織として、Rapidus の立地により特に大きな影響が生じると思われる 9 つの分野について関連する課長職で構成する「専門部会」を設置しています。

専門部会の 9 つの分野や千歳市次世代半導体拠点推進本部と専門部会におけるこれまでの開催状況などについては、第 4 章「これまでの市の取組」に掲載しています。

【事業者ヒアリングについて】

本市が設置した 9 つの専門部会の分野などに関連・精通する各団体や事業者から、必要に応じてビジョンに反映するための意見等を伺うため、計 17 の団体・事業者等にヒアリングを実施しました。いただいたご意見等の一部は本ビジョンに反映しています。

【事業者ヒアリング実施先団体一覧】

分 野	団 体 名
医療・福祉	北海道 石狩振興局保健環境部千歳地域保健室 千歳保健所
	一般社団法人 千歳医師会
生活・自然環境	環境省 北海道地方環境事務所
	北海道 札幌方面千歳警察署
	千歳市町内会連合会
	千歳市安全で住みよいまちづくり推進協議会
教育・人材・外国人対 応・デジタル技術	公立大学法人 公立千歳科学技術大学
	国際交流協会
産業・雇用	厚生労働省 北海道労働局 千歳公共職業安定所
	千歳商工会議所
	千歳工業クラブ
	千歳市商店街振興組合連合会
交流人口	一般社団法人 千歳観光連盟
都市整備・ 交通インフラ	国土交通省 北海道開発局札幌開発建設部千歳道路事務所
	北海道 空知総合振興局札幌建設管理部 千歳出張所
	北海道エアポート株式会社
	北海道中央バス株式会社

【パブリックコメントについて】

市民等からのご意見を広く伺うため、下記の期間でパブリックコメントを実施しました。いただいたご意見の一部は本ビジョンに反映するとともに、残りのご意見については今後の本市のまちづくりに向けた参考などとして活用させていただきます。

期間:令和 6 年(2024 年)10 月 16 日(水)から 11 月 15 日(金)

件数:13 件

千歳市将来ビジョン
令和7年(2025年)2月

【発行】

千歳市
〒066-8686 北海道千歳市東雲町2丁目34番地
TEL : 0123-24-3131(代表)
FAX : 0123-22-8854

【企画・編集】

企画部次世代半導体拠点推進室

千歳市将来ビジョン
掲載先



千歳市半導体情報
ウェブサイト

